

科目名	日本語日本文学入門	
担当者	◎新内 康子 / 平塚 雄亮 / 三浦 卓	
科目情報	人間文化<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	A. (三浦) 日本の少年少女にも愛読されてきた『モモ』を精読することを通して、文学を読むことの可能性を考える。 B. (平塚) 日本語の文字・音・語彙・文法といったさまざまな観点から、日本語研究における基礎的事項を概説する。 C. (新内) 外国人が使用した日本語の誤用を通して、日本人が言語形成期に自然習得した現代日本語の諸規則を考える。
	到達目標	A. (三浦) 文学を読むことの意義を考えるを通し、文学を研究するための土台を身につける。 B. (平塚) 日本語のあり方と変化に興味を持ち、日本語を研究するための視点や問題点を考える姿勢を身につける。 C. (新内) ことばに対して興味関心が持て、現代日本語の諸規則について考える姿勢を身につける。
授業計画	(1) ガイダンス 文学を読むこととは (三浦) (2) ミヒャエル・エンデ『モモ』① 主人公を分析する (三浦) (3) ミヒャエル・エンデ『モモ』② その他の登場人物を分析する (三浦) (4) ミヒャエル・エンデ『モモ』③ 「時間」と「ところ」について考える (三浦) (5) ミヒャエル・エンデ『モモ』④ 消費文化について考える (三浦) (6) ミヒャエル・エンデ『モモ』⑤ 「あとがき」からフィクションについて考える (三浦) (7) 日本語の文字 (平塚) (8) 日本語の音韻・音声 (平塚) (9) 日本語の語彙 (平塚) (10) 日本語の文法 (平塚) (11) 日本語の方言 (平塚) (12) 日本語の歴史 (平塚) (13) 日本語教育の現状。外国人の誤用から考える日本語の諸規則<音声> (新内) (14) 外国人の誤用から考える日本語の諸規則<語彙・表現> (新内) (15) 外国人の誤用から考える日本語の諸規則<文法> (新内)	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・前回の授業内容をよく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	A: ミヒャエル・エンデ『モモ』 2005年 岩波少年文庫 ISBN4-00-114127-2 B: 使用しない。プリントを配付する。 C: 使用しない。プリントを配付する
	参考文献	A: 授業時に適宜指示する。 B: 授業時に適宜指示する。 C: 授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	A: 文学を読むことを、自分や社会の問題として捉えることができる。 B: 日本語の特徴と変化について理解を深め、その問題点を見出し、考える姿勢を身につけることができれば合格とする。 C: 現代日本語への理解を深め日本語現象の特徴を見出しまとめることができれば合格とする。
	方法	A: レポート 50%、受講態度 50% B: テスト 50%、授業時の提出物・態度 50% C: 授業中課題 100%
備考	成績評価については、A, B, C すべての課題 (レポート、テスト等) を行わなければ、評価の対象としない。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）

教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語英米文化入門	
担当者	◎酒瀬川 純行 / 入江 公啓 / マーカス・シオボールド / 蒲地 賢一郎	
科目情報	人間文化<基礎> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	英米の歴史と文化、文学、英語の歴史等の視点に加えて、実践的な英語教育の必要性まで、多岐にわたり総合的に学習する。英語英米文化コース科目群で学習できること、卒業研究のテーマなど、今後の研究に必要な事項も学ぶ。
	到達目標	世界の急速な一体化が進む中で、国際語としての英語を実践的に学ぶことと、英米文化を理解することの重要性は益々高まっている。これまでの狭い意味での英語・英米文学という立場から抜け出し、広い文化的視点に立って言語や文化を分析する姿勢、能力をもつようになることが目標である。
授業計画	(1) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(1) (酒瀬川) (2) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(2) (酒瀬川) (3) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(3) (酒瀬川) (4) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(4) (酒瀬川) (5) 英語教育(1) (入江) (6) 英語教育(2) (入江) (7) 英語教育(3) (入江) (8) 英語教育(4) (入江) (9) cross-cultural communication (1) (シオボールド) (10) cross-cultural communication (2) (シオボールド) (11) cross-cultural communication (3) (シオボールド) (12) cross-cultural communication (4) (シオボールド) (13) 英語学(1) (蒲地) (14) 英語学(2) (蒲地) (15) 英語学(3) (蒲地)	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	4回ごとにテストを行う。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業内で、資料を配布する。
	参考文献	4人の教員が、授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	テストによって、到達目標に記されていることが理解できたものを合格とする。
	方法	人の教員が、英語の歴史・文化、英語教育、言語習得、英語学についてテストをおこなう。各々25%ずつ。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	歴史地理入門	
担当者	宗 建郎 溝上 宏美	
科目情報	人間文化<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	(前半)「地理的知識」とはいかなるものか、それに地理学がどのようにアプローチしてきたのかを説明する。(後半)歴史学という学問の特性と分野的広がりについて概観し、歴史を学ぶ上で不可欠な基礎的事項について説明する。
	到達目標	・(地理学分野) 地理学の流れを理解し、地理的知識とは何かについて自らの言葉で論じることができる。 ・(歴史学分野) 歴史学という学問についての概略を理解し、授業内容を踏まえたうえで自分なりに「歴史とは何か」という問題について論じることができる。
授業計画	(1) 地理学とは何か (2) 地図と歴史 (1) —地理的知識の拡大と地図 (3) 地図と歴史 (2) —地理的知識の精緻化 (4) 地理的知識とは (5) 近代地理学史 (1) —近代地理学の成立 (6) 近代地理学史 (2) —新しい地理学へ (7) 現代の地理学 (8) 歴史とは何か (9) 歴史学の歴史 (1) —近代歴史学の成立 (10) 歴史学の歴史 (2) —マルクス主義歴史学と時代区分論 (11) 歴史学の歴史 (3) —アナール学派と社会史 (12) 歴史の手法—史資料と批判的検討 (13) 様々な歴史学 (14) 歴史学の新しい潮流 (15) 歴史を学ぶ意味	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと ・意味のわからない用語は辞書などで事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業で紹介された参考文献を読むこと ・博物館や史跡・名勝などを訪ね、現地で考えること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業でレジュメを配布する。
	参考文献	P. クラヴァル『新しい地理学』文庫クセジュ、1984年 E. H. カー『歴史とは何か』岩波新書、1962年
成績評価の基準と方法	基準	到達目標に従って自分の言葉でまとめることができることを基準とします。
	方法	地理分野と歴史分野の成績を50%ずつに換算し合算する。歴史分野、地理分野ともにそれぞれ受講態度が40%、レポートが60%とする。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) 研究の方法、文献収集の方法 (3) 研究テーマに関する概要説明 (4) 研究テーマに関する文献調査 (1) (5) 研究テーマに関する文献調査 (2) (6) 研究テーマに関する文献調査 (3) (7) 研究テーマに関する文献調査 (4) (8) 研究テーマに関する文献調査 (5) (9) 研究テーマに関するディスカッション (1) (10) 研究テーマに関するディスカッション (2) (11) 研究テーマに関するディスカッション (3) (12) 研究テーマに関するディスカッション (4) (13) 研究テーマに関するディスカッション (5) (14) 研究テーマに関するディスカッション (6) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	配布したプリントは前もって読んでおくこと。
	事後学習	指示された課題を行うこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	別途指示する。
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みができたものは合格とする。
	方法	受講態度 50%、課題ほか 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	4年時の卒業論文作成のための基礎能力を身につけるために、日本語教育学、社会言語学、対照言語学の領域に関する問題と論点を知り、それらの問題解決の方法論について考える。
	到達目標	(1) 日本語教育学・社会言語学・対照言語学の領域に関する論点と分析方法がわかる。 (2) 卒業論文の作成方法がわかる。 (3) 卒業論文のテーマを決める。
授業計画	(1) 卒業論文の作成方法について（講義） (2) 社会言語学の先行研究について（講義） (3) 対照言語学の先行研究について（講義） (4) 類義表現の先行研究について（講義） (5) 発表および議論（演習） (6) 発表および議論（演習） (7) 発表および議論（演習） (8) 発表および議論（演習） (9) 発表および議論（演習） (10) 発表および議論（演習） (11) 発表および議論（演習） (12) 発表および議論（演習） (13) 発表および議論（演習） (14) 発表および議論（演習） (15) 発表および議論（演習）	
自学自習	事前学習	使用教材を前もって熟読し、疑問点等を整理しておくこと。 関心分野の先行研究等を探し、発表（演習）に備えてレジュメを作成すること。
	事後学習	関心分野の先行研究等を多く読み、卒業論文のテーマを探し出すこと。
使用教材・参考文献	使用教材	授業中に配布するプリントを使用する。
	参考文献	授業の中で必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標を達成できた者を合格とする。
	方法	授業での積極性(20点)、発表(30点)、レポート(30点)、卒業論文計画書(20点)で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	英語の文献を読み、テーマを探す。研究発表の準備と、その実践。そして、研究論文を書いてみる。
	到達目標	参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるようになる。
授業計画	(1) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (2) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (3) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (4) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (5) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (6) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (7) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (8) 英語文を読む。研究発表をする。 (9) 英語文を読む。研究発表をする。 (10) 英語文を読む。研究発表をする。 (11) 英語文を読む。研究発表をする。 (12) 英語文を読む。研究発表をする。 (13) 英語文を読む。研究発表をする。 (14) 英語文を読む。研究発表をする。 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に、当日読んだ英語文を再読すること。 予習内容と授業内容の類似点、相違点を確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるものを合格とする。
	方法	reading assignment 50%, presentation 50%
備考	毎回の予習は必須事項。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により英国の歴史、文化等に関するテーマについて演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。
授業計画	(1) 卒業論文作成に関するオリエンテーション (2) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (3) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (4) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (5) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (6) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (7) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (8) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (9) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (10) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (11) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (12) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (13) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (14) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドバイス。 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	卒業論文テーマに関する資料を読み、発表に備える。
	事後学習	指導教員の指導に基づき新たな資料等を調べ、発表に備える。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)等を用いる。
	参考文献	樋口昌幸、PA Goldsbury 『英語論文表現事典』北星堂書店 1982 ISBN4-590-01083-6 研究社出版編集部 『英文科学生必携ハンドブック』 研究社出版 1981 ISBN4-327-48071-1
成績評価の基準と方法	基準	テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。
	方法	毎時間の発表(80%)、研究態度(20%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	卒業研究 I	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	Discuss areas of interest for study, research guidance and collaborative writing. それぞれが興味を持った研究や情報源、論文の書き方について話し合います。
	到達目標	卒業論文のタイトルを決定し、研究内容について理解すること。卒業論文を完成させること。
授業計画	(1) Discuss how to write a research paper (2) Discuss areas of interest (3) Direct towards areas of research (4) Start writing down pages of research information (5) Continue writing (6) Continue writing (7) Continue writing (8) Continue writing (9) Continue writing (10) Continue writing (11) Assess research and discover a title (12) Continue writing (13) Continue writing (14) Continue writing (15) Review writing and guide research for the summer	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	ゼミの内容を復習しておくこと。毎週新しい研究内容を提示すること。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	Depending on the student's area of research
成績評価の基準と方法	基準	ゼミへ毎週参加し、多くの文献を調べて、新しい知見を取り入れて自分の意見が決まっていること。
	方法	ゼミ中の発表、コントリビューション100%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	4年次における卒業論文作成のための基礎能力が身につけられるよう、日本語教育学の日本語教育史・第二言語習得・対照言語学などの領域に関する問題と論点を知り、それらの問題解決の方法論について考える。
	到達目標	1. 上記の領域に関する論点と分析方法がわかるようになる。 2. 論文の作成方法がわかるようになる。 3. 卒業論文のテーマが見つげ出せる。
授業計画	(1) 日本語教育史の先行研究について (講義) (2) 日本語教育史の先行研究について (講義) (3) 日本語教育史の先行研究について (講義) (4) 同上に関する発表 (演習) (5) 同上に関する発表 (演習) (6) 第二言語習得の先行研究について (講義) (7) 第二言語習得の先行研究について (講義) (8) 第二言語習得の先行研究について (講義) (9) 同上に関する発表 (演習) (10) 同上に関する発表 (演習) (11) 対照言語学の先行研究について (講義) (12) 対照言語学の先行研究について (講義) (13) 対照言語学の先行研究について (講義) (14) 同上に関する発表 (演習) (15) 同上に関する発表 (演習)	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・発表に備え興味のある文献等をできるかぎり多く読むこと。
	事後学習	・発表したこと等以外にも多くの文献を読み、卒業論文のテーマを探し出すこと。
使用教材・参考文献	使用教材	プリント
	参考文献	関正昭『日本語教育史研究序説』1997年 スリーエーネットワーク ISBN 978-4-8839-086-7 迫田久美子『日本語教育に生かす第二言語習得研究』2002年 アルク ISBN 978-4-7574-0522-6 水谷信子『続日英比較話しことばの文法』2001年 くろしお出版 ISBN 978-4-87424-214-8
成績評価の基準と方法	基準	日本語教育史・第二言語習得・対照言語学といった分野の論点と分析方法、論文の作成方法がわかり、卒業論文のテーマが見つげ出せれば、合格とする。
	方法	授業における積極性 (20点)、発表 (30点)、レポート (30点)、卒業論文計画書 (20点)
備考	日本語教育関係科目 (日本語教育の基礎 I・II、日本語教授法 I・II、日本語教育実習など) を履修している者を対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	地理学に関する基礎的な文献および研究論文を読んでまとめ、発表を行う。
	到達目標	卒業論文の研究テーマを絞り込み、その分野に関する研究動向を把握する。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 文献検索 (3) 発表およびディスカッション (4) 発表およびディスカッション (5) 発表およびディスカッション (6) 発表およびディスカッション (7) 発表およびディスカッション (8) 発表およびディスカッション (9) 発表およびディスカッション (10)発表およびディスカッション (11)発表およびディスカッション (12)発表およびディスカッション (13)発表およびディスカッション (14)発表およびディスカッション (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・常に自らに必要と思われる文献がないか調べてみること。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・自らの発表や他の学生の発表結果を振り返り、次の文献検索につなげていくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。
	参考文献	適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文の研究テーマを絞り込み、そのテーマに関する研究動向を理解していることを基準とする。
	方法	発表 70%・受講態度 30%
備考	授業には積極的に参加してください。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。
授業計画	(1) ゼミ担当教員による史料解読 (2) ゼミ担当教員による史料解読 (3) ゼミ担当教員による史料解読 (4) ゼミ担当教員による史料解読 (5) ゼミ担当教員による史料解読 (6) ゼミ担当教員による史料解読 (7) ゼミ担当教員による史料解読 (8) 学生による発表 (史料解読) (9) 学生による発表 (史料解読) (10) 学生による発表 (史料解読) (11) 学生による発表 (史料解読) (12) 学生による発表 (史料解読) (13) 学生による発表 (史料解読) (14) 学生による発表 (史料解読) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	新たに出了課題について調べる。
使用教材・参考文献	使用教材	古文書・古記録の史料を配布する。
	参考文献	『鹿児島県史料・旧記雑録』 黎明館
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文の研究テーマを絞り込み、そのテーマに関する研究動向を理解していることを基準とする。
	方法	授業での報告と議論が 60%、その結果でてきた成果物 (レジュメ、論文の草稿など) が 40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	日高 愛子 / HIDAKA, Aiko	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業論文で扱う題材を考え、先行研究や文献資料を整理し、問題意識やテーマについて明確化する。資料の扱い方や、多角的なアプローチ方法を学び、古典文学を研究するうえで必要な手法や考察力を身につける。
	到達目標	1) 研究テーマに関連する文献を収集して、情報を整理・考察することができる。 2) 先行研究や問題点を把握し、自分なりの視点や見解を導き出すことができる。 3) 卒業論文のテーマを見つけ、研究方法などの見通しを得ることができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 作品・テーマを考える① (3) 作品・テーマを考える② (4) 作品・テーマを考える③ (5) 論文や文献の調べ方 (6) 先行研究の収集・整理① (7) 先行研究の収集・整理② (8) 先行研究の収集・整理③ (9) 作品・テーマの考察① (10) 作品・テーマの考察② (11) 作品・テーマの考察③ (12) 研究発表① (13) 研究発表② (14) 研究発表③ (15) 総括	
自学自習	事前学習	・自分の研究テーマに関する文献を収集し、研究報告・発表の準備をする。 ・質疑応答に対応できるよう事前に調べ、準備する。
	事後学習	・授業中に指摘された問題点や改善点について確認し、再考する。 ・授業で調べたことを整理し、データとしてまとめる。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。
	参考文献	受講生それぞれに応じたものを授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	研究テーマを決定し、先行研究などの文献を収集・整理し、研究の見通しを報告・発表できれば合格とする。
	方法	研究発表 (50%)、各回の活動報告 (30%) 授業参加度 (20%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	次年度の卒業論文の執筆に向けて、テーマの検討・決定を行う。そのうえで、各自のテーマに関する先行研究を探し、レジュメにまとめて発表する。ゼミ参加者も積極的にディスカッションに参加する。
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みができるようになる。
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による (2) ゼミ担当教員の指示による (3) ゼミ担当教員の指示による (4) ゼミ担当教員の指示による (5) ゼミ担当教員の指示による (6) ゼミ担当教員の指示による (7) ゼミ担当教員の指示による (8) ゼミ担当教員の指示による (9) ゼミ担当教員の指示による (10) ゼミ担当教員の指示による (11) ゼミ担当教員の指示による (12) ゼミ担当教員の指示による (13) ゼミ担当教員の指示による (14) ゼミ担当教員の指示による (15) ゼミ担当教員の指示による	
自学自習	事前学習	各回の担当者のレジュメをしっかりと読んでくる。また、各自の発表に向けて準備する。
	事後学習	各回の発表についてわからなかったこと、疑問に思ったことがあれば自分で調べる。
使用教材・参考文献	使用教材	特に指定しない。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標にしたがい、先行研究を適切にまとめられるようになれば合格とする。
	方法	発表 50%、議論への参加 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) ゼミ担当教員の指示による。 (3) ゼミ担当教員の指示による。 (4) ゼミ担当教員の指示による。 (5) ゼミ担当教員の指示による。 (6) ゼミ担当教員の指示による。 (7) ゼミ担当教員の指示による。 (8) ゼミ担当教員の指示による。 (9) ゼミ担当教員の指示による。 (10)ゼミ担当教員の指示による。 (11)ゼミ担当教員の指示による。 (12)ゼミ担当教員の指示による。 (13)ゼミ担当教員の指示による。 (14)ゼミ担当教員の指示による。 (15)ゼミ担当教員の指示による。	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。
	参考文献	ゼミ担当教員の指示による。
成績評価の基準と方法	基準	テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。
	方法	受講態度 40%、卒業論文 60%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業論文で扱う課題を各自設定し、参考文献を収集してその内容を報告するとともに、史料の収集、読解をおこなう。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文を書くために、専門的な知識に基づいて、自ら課題を設定することができるようになる。</li> <li>・自らが調べている分野に関する先行研究の状況を把握し、卒論の議論の見通しを立てることができるようになる。</li> <li>・自ら調べた内容を報告し、議論することができるようになる。</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーションー卒業論文とは？ (2) 報告と議論 (3) 報告と議論 (4) 報告と議論 (5) 報告と議論 (6) 報告と議論 (7) 報告と議論 (8) 報告と議論 (9) 報告と議論 (10) 報告と議論 (11) 報告と議論 (12) 報告と議論 (13) 報告と議論 (14) 報告と議論 (15) 卒業研究Ⅱにむけて	
自学自習	事前学習	・報告に向けて、必要な文献を収集し、読み、まとめておくこと。
	事後学習	・報告の際に指摘された問題点について検討し、必要なところが調べておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。報告者がレジュメと資料を準備する。
	参考文献	指導教員の助言の下、自ら参考文献、史料を探す。
成績評価の基準と方法	基準	当該分野において、先行研究を踏まえたうえで適切に問題設定ができており、必要な参考文献や資料を収集し、整理して報告できているかを基準とする。
	方法	授業での報告と議論が60%、その結果でできた成果物（レジュメ、論文の草稿など）が40%
備考	史料読解（特に英語史料）については、別途時間を設けて個別指導を行うこともある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	卒業研究 I	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。具体的な内容は学生の研究対象と論文の題目に因る。
	到達目標	卒業論文を執筆卒業論文を執筆するために必要なスキル、資料の搜索法、文献の解釈法、研究の方法論を理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 学生と相談してテーマを決定する。 (3) 演習 (4) 演習 (5) 演習 (6) 演習 (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10)演習 (11)演習 (12)演習 (13)演習 (14)演習 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	前回の授業で指示された課題の遂行。
	事後学習	学生の研究対象に応じて、毎回課題を出す。また、前回の課題の結果に追加・訂正を指示する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。
	参考文献	学生の研究対象に合わせて指示する。
成績評価の基準と方法	基準	資料の搜索法、文献の解釈法、研究の方法論を理解できれば合格とする。
	方法	資料の搜索法 20%、文献の解釈法 20%、研究の方法論 20%、出席態度 40%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究 I	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) ゼミ担当教員の指示による。 (3) ゼミ担当教員の指示による。 (4) ゼミ担当教員の指示による。 (5) ゼミ担当教員の指示による。 (6) ゼミ担当教員の指示による。 (7) ゼミ担当教員の指示による。 (8) ゼミ担当教員の指示による。 (9) ゼミ担当教員の指示による。 (10)ゼミ担当教員の指示による。 (11)ゼミ担当教員の指示による。 (12)ゼミ担当教員の指示による。 (13)ゼミ担当教員の指示による。 (14)ゼミ担当教員の指示による。 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	研究文献を集めて整理して発表に向けた準備をする。
	事後学習	新たに出た課題について調べる。
使用教材・参考文献	使用教材	ゼミ担当教員の指示による。
	参考文献	ゼミ担当教員の指示による。
成績評価の基準と方法	基準	興味関心によって先行研究を収集し、研究動向を把握してテーマを絞り込めていれば合格とする。
	方法	授業における報告と議論 (40%)、卒業論文準備書 (60%)。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。
	到達目標	卒業論文を完成させる。
授業計画	(1) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (1) (2) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (2) (3) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (3) (4) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (4) (5) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (5) (6) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (6) (7) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (7) (8) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (8) (9) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (9) (10) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (10) (11) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (11) (12) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (12) (13) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (13) (14) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (14) (15) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (15)	
自学自習	事前学習	配布したプリントは前もって読んでおくこと。
	事後学習	指示された課題を行うこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	別途指示する。
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文を完成できたものは合格とする。
	方法	受講態度 40%、卒業論文 60%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	自分の卒業論文の題目に関連した先行研究を読み、卒業論文の構成、調査・分析方法を決め、卒業論文を作成する。
	到達目標	(1) 卒業論文の構成を決定できる。 (2) 先行研究を要約できる。 (3) 卒業論文における調査・分析方法を決定できる。 (4) 卒業論文を作成できる。
授業計画	(1) 卒業論文の題目、構成および作成方法について (2) 先行研究（発表と議論） (3) 先行研究（発表と議論） (4) 先行研究（発表と議論） (5) 先行研究（発表と議論） (6) 先行研究（発表と議論） (7) 先行研究（発表と議論） (8) 先行研究（発表と議論） (9) 先行研究（発表と議論） (10) 先行研究（発表と議論） (11) 先行研究（発表と議論） (12) 先行研究（発表と議論） (13) 先行研究（発表と議論） (14) 卒業論文の草稿（題目、構成、はじめに、先行研究）の検討 (15) 卒業論文の草稿（題目、構成、はじめに、先行研究）の検討	
自学自習	事前学習	先行研究を読み、レジュメにまとめること。
	事後学習	先行研究を要約し、卒業論文の草稿を作成すること。
使用教材・参考文献	使用教材	授業中に配布するプリントを使用する。
	参考文献	授業の中で必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標を達成できた者を合格とする。
	方法	発表(50点)、卒業論文の草稿(50点)で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	英語の文献を読み、テーマを探す。研究発表の準備と、その実践。そして、研究論文を書いてみる。
	到達目標	参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるようになる。
授業計画	(1) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (2) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (3) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (4) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (5) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (6) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (7) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (8) 英語文を読む。研究発表をする。 (9) 英語文を読む。研究発表をする。 (10) 英語文を読む。研究発表をする。 (11) 英語文を読む。研究発表をする。 (12) 英語文を読む。研究発表をする。 (13) 英語文を読む。研究発表をする。 (14) 英語文を読む。研究発表をする。 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に、当日読んだ英語文を再読すること。 予習内容と授業内容の類似点、相違点を確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるものを合格とする。
	方法	reading assignment 50%, presentation 50%
備考	毎回の予習は必須事項。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により英国の歴史、文化等に関するテーマについて演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。
授業計画	(1) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (2) 卒業論文(英語)の書き方、指導教員のアドヴァイス。 (3) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (4) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (5) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (6) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (7) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (8) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (9) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (10) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (11) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (12) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (13) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (14) 卒業論文(英語)作成準備、指導教員の指導及びアドヴァイス。 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	卒業論文テーマに関する資料を読み、論文(草案)を準備する。
	事後学習	指導教員の指導、アドヴァイスに基づき論文(草案)を推敲する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)等を用いる。
	参考文献	樋口昌幸、PA Goldsbury 『英語論文表現事典』北星堂書店 1982 ISBN4-590-01083-6 研究社出版編集部 『英文科学生必携ハンドブック』 研究社出版 1981 ISBN4-327-48071-1
成績評価の基準と方法	基準	テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。
	方法	毎時間のペーパー提出(80%)、研究態度(20%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	Discuss areas of interest for study, research guidance and collaborative writing. それぞれが興味を持った研究や情報源、論文の書き方について話し合います。
	到達目標	研究内容について理解すること。卒業論文を完成させること。
授業計画	(1) Continue writing (2) Continue writing (3) Continue writing (4) Continue writing (5) Continue writing (6) Continue writing (7) Continue writing (8) Continue writing (9) Continue writing (10) Complete first draft (11) Arrange chapters and contents (12) Compile second draft (13) Add final pieces of necessary information (14) Produce final report (15) Practice presentation of research	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	ゼミの内容を復習しておくこと。毎週新しい研究内容を提示すること。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	Depending on the student's area of research
成績評価の基準と方法	基準	ゼミへ毎週参加し、卒業研究に取り組むこと。自分の意見をより発展させていること。
	方法	ゼミ中の発表と論文、コントリビューション 100%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで決めた卒業論文テーマについて、多くの先行研究を読み要約し、具体的な論点を浮き彫りにし、卒業論文に用いる分析方法と論文の構成を決める。
	到達目標	1. 卒業論文の詳細なテーマが決められる。 2. 先行研究が適切に要約できる。 3. 卒業論文に用いる分析方法が決められる。 4. 卒業論文の構成が決められる。
授業計画	(1) 授業概要説明。卒業研究Ⅰで提出した卒業論文計画書の検討。 (2) 先行研究①発表と検討 (3) 先行研究②発表と検討 (4) 先行研究③発表と検討 (5) 卒業論文題目の具体的な検討 (6) 先行研究④発表と検討 (7) 先行研究⑤発表と検討 (8) 先行研究⑥発表と検討 (9) 先行研究⑦発表と検討 (10) 先行研究⑧発表と検討 (11) 先行研究⑨発表と検討 (12) 先行研究⑩発表と検討 (13) 卒業論文に用いる分析方法の検討 (14) 卒業論文の構成の発表と検討 (15) 卒業論文「1. はじめに」「2. 先行研究」の文章検討	
自学自習	事前学習	・卒業論文のテーマに関わる先行研究を探し出し、読み、適切に要約しておくこと。
	事後学習	・発表後の検討で指摘された内容を再確認し、訂正・加筆等しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	必要なものは授業時に適宜指示する。
	参考文献	必要なものは授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文のテーマにもとづき、卒業論文の「1. はじめに」「2. 先行研究」がまとめられれば、合格とする。
	方法	発表 (50点)、レポート (50点)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	自ら定めた卒業論文のテーマに沿って学術論文をまとめ、研究方法を学び、対象地域を選定して予備的な調査を行う。また、それぞれの段階で発表を行う。
	到達目標	卒業論文の研究テーマに必要な方法論を身につける。研究対象地域について基礎的な知識を身につける。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 文献検索 (3) 発表およびディスカッション (4) 発表およびディスカッション (5) 発表およびディスカッション (6) 発表およびディスカッション (7) 発表およびディスカッション (8) 発表およびディスカッション (9) 発表およびディスカッション (10)発表およびディスカッション (11)発表およびディスカッション (12)発表およびディスカッション (13)発表およびディスカッション (14)発表およびディスカッション (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・常に自らに必要と思われる文献がないか調べてみること。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・自らの発表や他の学生の発表結果を振り返り、次の文献検索および研究対象地域選定につなげていくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。
	参考文献	適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文作成に必要な研究法を身につけていること、および研究対象地域について基礎的な情報を収集していることを基準とする。
	方法	発表 70%、受講態度 30%
備考	授業には積極的に参加してください。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえて、より具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。
	到達目標	卒業論文を完成させる。
授業計画	(1) ゼミ担当教員によるオリエンテーション (2) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (3) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (4) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (5) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (6) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (7) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (8) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (9) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (10) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (11) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (12) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (13) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (14) 学生による発表 (史料解読と論理構築) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	新たに出た課題について調べる。
使用教材・参考文献	使用教材	古文書・古記録の史料を配布する。
	参考文献	『鹿児島県史料・旧記雑録』ほか。
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文の研究テーマを絞り込み、そのテーマに関する研究動向を理解していることを基準とする。
	方法	授業での報告と議論が60%、その結果でてきた成果物（レジュメ、論文の草稿など）が40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	日高 愛子 / HIDAKA, Aiko	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえて、作品やテーマについてより深く考察する。卒業論文の構成と書き方を学び、アウトラインを作成、章立てを確定する。先行研究や文献資料を精読・整理したうえで、自らの考えを論理的に説明することができる。
	到達目標	1) 研究テーマに関連する資料等を収集する。 2) 先行研究を整理し、文献を読み込む。 3) アウトラインを作成し、章立てを確定する。 4) 先行研究を踏まえながら、自らの考えを論理的に説明することができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 研究テーマと問題の確認① (3) 研究テーマと問題の確認② (4) 研究テーマと問題の確認③ (5) 先行研究・文献の精読① (6) 先行研究・文献の精読② (7) アウトラインの作成・章立ての確定 (8) 論文の書き方—文体と構成 (9) 論文の書き方—文献の引用方法 (10) 論文の書き方—資料の取り上げ方 (11) 発表資料の作成① (12) 発表資料の作成② (13) 発表資料の作成③ (14) 卒論中間発表 (15) 総括	
自学自習	事前学習	・自分の研究テーマに関する文献を収集し、研究報告・発表の準備をする。 ・質疑応答に対応できるよう事前に調べ、準備する。
	事後学習	・授業中に指摘された問題点や改善点について確認し、再考する。 ・授業で調べたことを整理し、データとしてまとめる。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。
	参考文献	受講生それぞれに応じたものを授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	アウトラインを作成し、章立てを決め、各回、活動報告を行う。そのうえでゼミ内で卒論中間発表を行うことができれば合格とする。
	方法	研究発表 (50%)、各回の活動報告 (30%) 授業参加度 (20%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業論文の執筆に向けて、各自のテーマについて発表する。各自の発表をもとに全員でディスカッションを行い、教員の指導を受ける。
	到達目標	卒業論文の完成に向けて、各自のテーマの執筆を進める。また、後期行うべき作業についてもはっきりと設定できるようになる。
授業計画	(1)ゼミ担当教員の指示による (2)ゼミ担当教員の指示による (3)ゼミ担当教員の指示による (4)ゼミ担当教員の指示による (5)ゼミ担当教員の指示による (6)ゼミ担当教員の指示による (7)ゼミ担当教員の指示による (8)ゼミ担当教員の指示による (9)ゼミ担当教員の指示による (10)ゼミ担当教員の指示による (11)ゼミ担当教員の指示による (12)ゼミ担当教員の指示による (13)ゼミ担当教員の指示による (14)ゼミ担当教員の指示による (15)ゼミ担当教員の指示による	
自学自習	事前学習	各自の発表に向けて準備をする。
	事後学習	卒業論文の執筆に向けての作業を行う。
使用教材・参考文献	使用教材	特に指定しない。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文のアウトラインができ、適切に執筆が進められていれば合格とする。
	方法	発表 50%、議論への参加 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。
	到達目標	卒業論文を完成させる。
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) ゼミ担当教員の指示による。 (3) ゼミ担当教員の指示による。 (4) ゼミ担当教員の指示による。 (5) ゼミ担当教員の指示による。 (6) ゼミ担当教員の指示による。 (7) ゼミ担当教員の指示による。 (8) ゼミ担当教員の指示による。 (9) ゼミ担当教員の指示による。 (10) ゼミ担当教員の指示による。 (11) ゼミ担当教員の指示による。 (12) ゼミ担当教員の指示による。 (13) ゼミ担当教員の指示による。 (14) ゼミ担当教員の指示による。 (15) ゼミ担当教員の指示による。	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。
使用教材・参考文献	使用教材	ゼミ担当教員の指示による
	参考文献	ゼミ担当教員の指示による
成績評価の基準と方法	基準	テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。
	方法	受講態度 40%、卒業論文 60%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰに引き続いて、自ら選んだ課題について参考文献、史料を収集して整理し、卒業論文執筆にむけた準備を行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な参考文献や史料を集めて、その内容を適切に整理し、口頭で報告することができるようになる。</li> <li>先行研究を踏まえたうえで、参考文献や資料を用いて自ら議論を組み立てることができるようになる。</li> </ul>
授業計画	(1) オリエンテーションー卒業論文を書くために (2) 報告と議論 (3) 報告と議論 (4) 報告と議論 (5) 報告と議論 (6) 報告と議論 (7) 報告と議論 (8) 報告と議論 (9) 報告と議論 (10) 報告と議論 (11) 報告と議論 (12) 報告と議論 (13) 報告と議論 (14) 報告と議論 (15) 卒業論文執筆に向けて	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告に向けて、参考文献や史料を収集し、内容を整理しておく。</li> <li>授業での指示に従って、論文執筆に向けた準備をすすめておく。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で指摘された問題点、課題について検討し、解決しておく。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。報告者自らレジュメと資料を作成すること。
	参考文献	指導教員の助言の下、参考文献は自ら探すこと。
成績評価の基準と方法	基準	先行研究を踏まえたうえで、自ら探した参考文献や資料を使い、自分で議論を組み立てることができるかを基準とする。
	方法	授業中の議論と報告が 60%、作成したレジュメや資料、論文の草稿が 40%として評価する。
備考	卒業研究Ⅰを履修していることが望ましい。また、史料読解（英語史料）については、別途時間を設けて個別指導をすることもある。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。具体的な内容は学生の研究対象と論文の題目に因る。
	到達目標	卒業論文を完成できる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 学生と相談して論文の題目の再確認。 (3) 演習 (4) 演習 (5) 演習 (6) 演習 (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10)演習 (11)演習 (12)演習 (13)演習 (14)演習 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	前回の授業で指示された課題の遂行。
	事後学習	学生の研究対象に応じて、毎回課題を出す。また、前回の課題の結果に追加・訂正を指示する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。
	参考文献	学生の研究対象に合わせて指示する。
成績評価の基準と方法	基準	卒業論文を完成できれば合格とする。
	方法	資料の搜索と解釈 25%、問題の設定と論証 25%、論理的な文章 25%、出席態度 25%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	卒業研究Ⅱ	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次	
	—	
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。
	到達目標	卒業論文のアウトラインを完成させる。
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) ゼミ担当教員の指示による。 (3) ゼミ担当教員の指示による。 (4) ゼミ担当教員の指示による。 (5) ゼミ担当教員の指示による。 (6) ゼミ担当教員の指示による。 (7) ゼミ担当教員の指示による。 (8) ゼミ担当教員の指示による。 (9) ゼミ担当教員の指示による。 (10) ゼミ担当教員の指示による。 (11) ゼミ担当教員の指示による。 (12) ゼミ担当教員の指示による。 (13) ゼミ担当教員の指示による。 (14) ゼミ担当教員の指示による。 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	研究テーマにそって文献を収集し分析して発表に向けた準備をする。
	事後学習	新たに出た課題について調べる。
使用教材・参考文献	使用教材	ゼミ担当教員の指示による。
	参考文献	ゼミ担当教員の指示による。
成績評価の基準と方法	基準	先行研究を整理したうえで、研究テーマを確定し、必要な参考文献および資料を収集して、卒業論文のアウトラインができていれば合格とする。
	方法	授業における報告と議論 (40%)、卒業論文計画書 (60%)。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	生涯学習概論Ⅰ	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員・司書・社会教育主事資格科目 / 必修、「生涯開発論」と同一科目	
科目概要	授業内容	現代はあらゆる活動が知識や情報が直接的な基盤となる知識社会であるといわれている。この時代に生きる私たちは、学校などでの一時期の学習だけでなく、生涯にわたる学習が不可欠となっている。そうした視点から、今日に生きるための学習のあり方をもとに考える。
	到達目標	現代における教育・学習の意味を理解する。 生涯にわたる教育・学習の仕組みとその意味を知る。 自らの生涯にわたる学習のイメージをつかむ。
授業計画	(1) 「学び」の本質と生涯学習 (2) 生涯学習の歴史 (3) 学校と生涯学習 (4) 学校と生涯学習 (5) 生涯学習・社会教育と法 (6) 生涯学習・社会教育施設 (7) 生涯学習・社会教育の内容と方法 (8) 生涯学習・社会教育実践の諸相—NPO・ボランティア活動 (9) // —まちづくりと生涯学習 (10) // —女性の生活の変化と生涯学習 (11) // —子育て・青少年教育と生涯学習 (12) // —高齢者と生涯学習 (13) // —情報化と生涯学習 (14) // —グローバル化と生涯学習 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深め、ノート整理をすること。
使用教材・参考文献	使用教材	適宜プリントを配布する
	参考文献	丸山英樹ほか『ノンフォーマル教育の可能性』新評論 2013年／田中雅文ほか『テキスト生涯学習』学文社 2008年／『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012年／『社会教育』日本青年館
成績評価の基準と方法	基準	現代における生涯学習の意味を理解し、社会における生涯学習のあり方と自らの生涯学習の見通しをたてることができる。
	方法	授業中に課す小レポート 30点、期末試験 70点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	生涯学習概論Ⅱ	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	社会教育主事資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	世界において生涯学習が組織化されてきた過程と今日までの展開についての歴史的 理解を得ることによって、これからの生涯学習のあり方を国際的視野にたつて考 える。
	到達目標	国際的・歴史的視点から、生涯学習の今日的到達点と課題を理解し、これからのあり 方を展望する。
授業計画	(1) 近代生涯学習の誕生とその理念 (2) 社会問題の発生と生涯教育の組織化 (3) 成人教育制度と国家的整備 (4) 日本の社会教育制度の誕生とその性格 (5) 労働の変化と成人教育 (6) 成人教育の国際化とユネスコの誕生 (7) ユネスコ生涯学習論の誕生と課題 (8) 南北問題と生涯学習の転換 (9) 学習権宣言と識字教育 (10) 21世紀の鍵=成人の学習 (11) 世界の生涯学習の諸相—アジアとヨーロッパを素材に— (12) 持続可能な開発のための教育 (13) 実現可能な未来のために生きることと学ぶこと：成人学習の力 (14) 国際的視野からみた日本の生涯学習の課題 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解 を深め、ノート整理をすること。
使用教材・ 参考文献	使用教材	適宜プリントを配布する
	参考文献	『現代世界の生涯学習』大学図書出版、2016年／『持続可能な開発のための教育をつ くる—地域でひらく未来の教育』ミネルヴァ書房、2011年／ユネスコ『持続可能な未 来のための学習』有斐閣 2005年／社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習 ハンドブック』2011年
成績評価の 基準と方法	基準	国際的・歴史的視点にたつて今日の生涯学習のあり方を考え、論じることができる。
	方法	授業中に課す小レポート20点、プレゼンテーション30点、期末試験50点
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地域教育論	
担当者	東川 隆太郎 / HIGASHIKAWA, Ryutaro	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	鹿児島地域における生涯学習・観光・まちづくりの現状や課題、またはそれらの活動のこれからを実践事例等から地域における人材育成の手法を学ぶことを目的とする。
	到達目標	地域で活動すること・地域で学ぶことを、実践研究や鹿児島らしいテーマから具体的に学習することで、地域教育やまちづくり活動に必要な手法やノウハウを理解する。
授業計画	(1) 「地域・教育」ってなんだろう(地域教育総論) (2) 地域の公民館で活動する～講座開催の計画立案～ (3) 地域へのまなざし～マイヘリテージの取組・世間遺産～ (4) 地域へのまなざし～フィールドワーク(大学周辺まち歩き) * (5) 地域へのまなざし～温泉文化・公衆浴場という地域コミュニティー～ (6) 「考現学」で学内を見つめる * (7) 地域の「農」を考える～グリーン・ツーリズムの取組～ (8) 世界遺産へ向けた動き～明治日本の産業革命遺産～ (9) 離島の魅力から地域を考える・島の人材育成 (10) 「ゆるキャラ」や「ご当地キャラ」と「ご当地アイドル」で地域づくり * (11) 地域へのまなざし～フィールドワーク(郡元墓地まち歩き) (12) ジオパークにおける教育的効果と人材育成 (13) 地域づくりと観光～明治維新150年に向けた動き (14) 地域づくりと観光における人材育成～「まち歩き」「観光ガイド」 (15) 総まとめ *	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・鹿児島市のNPO活動や地域づくり活動に積極的に参加すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。
	参考文献	適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	授業内容を参考にしたそれぞれのレポートにおいて、オリジナリティーのある表現または創造ができたものを合格とする。
	方法	4回のレポート提出70%、毎回の授業後提出の感想レポート30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会教育計画論Ⅰ	
担当者	松下 尚明 / MATSUSHITA, Naoaki	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	集中講義	
科目概要	授業内容	生涯学習時代に地域で展開されている学習・実践等の具体的様相、それを支える論理、そして今後の社会教育計画のあり方を学ぶ。
	到達目標	①「社会教育の問題意識」はいかに発生するかを学び、生涯学習時代の中の位置づけが分かる。②現場の社会教育が当面している問題を学び、今後の課題と方向性について理解することができる。③社会教育計画の視点と方法を理解するとともに、社会教育主事としての表現方法を学ぶことができる。
授業計画	(1) 社会教育計画の問題意識 (2) 地域の只中に立つ社会教育主事 (3) 社会教育主事のベテランとプロ (4) テキスト熟読・討論・小論①作成・・・【アクティブラーニング】 (5) 社会教育・学校教育・地域の教育力 (6) 戦前における学校教育と社会教育の融合の実践 (7) 自治の一環としての社会教育行政 (8) テキスト熟読・討論・小論②作成・・・【アクティブラーニング】 (9) 学校・家庭・地域の三者連携の結末点 - PTA (10) P T Aの活動計画論 (11) 地域女性団体と活動計画 (12) テキスト熟読・討論・小論③作成・・・【アクティブラーニング】 (13) 地域変動に対応するコミュニティづくり (14) 薩摩郷中教育の理念と計画 (15) 薩摩郷中教育の現代化論	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。[意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。]
	事後学習	書き上げた小論（400字）を翌日に提出すること。
使用教材・参考文献	使用教材	松下尚明 『南薩の地平にて』 2015年 鹿児島学術文化出版 ISBN978-4-902709-20-9
	参考文献	松下尚明 『ドラマとしてのベッドサイド』 2013 鹿児島学術文化出版 ISBN 978-4-902709-19-3
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて「社会教育の概念理解」が達成されたものは合格とします。また、「小論の提出」がない場合は不合格とします。
	方法	社会教育の概念理解の程度を見るレポート（60%）、小論（20%）、受講態度（20%）。
備考	教科書を熟読して小論4本（小論④は課題とする）を仕上げることは、現場の社会教育主事のあり方を把握するために必須である。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会教育計画論Ⅱ	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	社会教育主事資格科目 / 必修	
科目概要	授業内容	社会教育計画の理論をふまえ、全国の優れた社会教育計画とその実践を考察・分析する。 実際に、近隣の公民館の社会教育事業計画を策定し実施する。
	到達目標	社会教育計画づくりのための基礎力を形成する。 社会教育計画案を実際に策定・評価できる力量を習得する。
授業計画	(1) 社会教育計画とは (2) 社会教育主事の役割 (3) 学習者の理解 (4) 社会教育調査とその活用 (5) 社会教育計画の方法① (6) 社会教育計画の方法② (7) 社会教育計画事例の考察・分析① (8) 社会教育計画事例の考察・分析② (9) 社会教育計画づくり① (10) 社会教育計画づくり② (11) 社会教育事業の体験 (12) 社会教育事業体験の省察・評価 (13) 社会教育施設計画 (14) 社会教育職員の養成と配置 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深め、ノート整理をしておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	適宜プリントを配布する。
	参考文献	辻浩ほか『自治の力を育む社会教育計画』国土社、2014年／朝岡幸彦ほか『講座づくりのコツとワザ』国土社、2013年／『月刊公民館』第一法規、社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所 2011年。『公民館のデザイン』エイデル研究所 2010年。『社会教育計画の基礎』学文社 2012年。
成績評価の基準と方法	基準	社会教育計画の意義を理解し、実際に社会教育計画を作成・実施できる。
	方法	レポート報告 20点、社会教育計画案作成・実施 40点、期末テスト 40点
備考	原則として生涯学習概論Ⅰを受講していることを条件とする。 公民館k活動などに普段から親しんでおくことを勧める。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会教育演習	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	社会教育主事資格科目 / 選択必修	
科目概要	授業内容	「地方消滅の危機」が言われるほどに、地方では産業・教育・文化・福祉・医療などの機能が急速に衰えている地域が増加している。鹿児島もまたしかりである。地域再生が求められるゆえんであるが、そのために社会教育は何ができるのだろうか。またどうあったらよいのだろうか。本授業では、主体的に地域の課題に取り組む学習・文化活動・地域活動＝地域学習を展開することを柱に地域再生に取り組んでいる地域の事例を検討し、問題に迫ることとする。
	到達目標	全国および鹿児島での地域学習の事例考察を通して、地域再生における社会教育の位置を分析し、これからの社会教育のあり方を提案できることをめざす。
授業計画	(1) 地域再生の課題と社会教育 (2) 地域学習の歴史とその意味 (3) 東日本大震災と地域学習 (4) 農山村に広がる文化運動 (5) 社会的企業と地域協同 (6) 子育てと地域づくり (7) 公民館における地域学習 (8) 博物館と地域学習 (9) 地域と大学の連携 (10) 鹿児島の地域学習の資料収集と調査① (11) 鹿児島の地域学習の資料収集と調査② (12) 鹿児島の地域学習の資料収集と調査③ (13) 鹿児島の地域学習の現状分析① (14) 鹿児島の地域学習の現状分析② (15) 調査分析の報告とまとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	佐藤一子編『地域学習の創造―地域再生の学びを拓く―』東京大学出版会 2015年
	参考文献	松下尚明『南薩の地平にて―地域と文化―』鹿児島学術文化出版、2015年／広井良典ほか『生涯学習政策研究―地域づくりを支える社会教育―』悠光堂、2013年
成績評価の基準と方法	基準	論文の要旨をまとめ、論点を提示し議論することができる。地域学習の情報を集め、整理・紹介・分析し、レポートとしてまとめることができる。
	方法	文献・資料を考察したレポート報告 30%、調査発表 30% 調査報告レポート 40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会教育実習	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 後期 / 実習・演習 / 2単位 / 3年次	
	社会教育主事資格科目 / 選択必修	
科目概要	授業内容	教育委員会生涯学習課及び社会教育施設において実習（期間は1週間程度）を行う。実習にあたっては、事前授業において社会教育主事の役割を中心に社会教育制度の仕組みとその意義を理解する。事後授業においては、実習の反省とまとめを各自の発表のもとに行う。
	到達目標	実習を通して、住民の学習・文化・スポーツ活動を支援する社会教育主事の仕事の基本と役割を理解する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 社会教育・生涯学習の歴史と社会教育主事 (3) 社会教育制度の仕組み (4) 社会教育主事の仕事とその役割 (5) 社会教育実習の計画 (6) 社会教育実習 (7) 社会教育実習 (8) 社会教育実習 (9) 社会教育実習 (10) 社会教育実習 (11) 社会教育実習 (12) 社会教育実習 (13) 社会教育実習のふりかえり (1) (14) 社会教育実習のふりかえり (2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	使用教材	社会教育行政研究会『社会教育行政読本－協働時代の道しるべー』2013年、第一法規
	参考文献	社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』2005年 鈴木真理ほか『社会教育の核心』全日本社会教育連合会、2010年 日本社会教育学会『地域を支える人々の学習支援』東洋館出版 2015年
成績評価の基準と方法	基準	社会教育実習に積極的に取り組み、かつ実習についての内容・考察を適切に記録できること。ただし、実習事前・事後授業への出席が大前提であり、出席不良の場合実習そのものが認められない。
	方法	社会教育実習 80点、実習事前・事後の発表 20点。
備考	原則として、生涯学習・社会教育関連の単位を取得していること。 実習先への交通費などは自己負担とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	法学概論	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	法とは何か、法の学び方、暮らしと法の関係など、法学の基礎となる事項を扱う。 「教職課程」における「教科に関する科目」であることに留意した授業内容とする。
	到達目標	法学の基本的な用語を学び、法的な見方・考え方について理解する。 日常生活と法の関係について学び、簡単に説明できるようにする。
授業計画	(1) この講義の概要 (2) 法と法学 (3) 国家と法（憲法の基礎） (4) 国際社会と法（国際法の基礎） (5) 裁判と法（司法制度の基礎） (6) 家族と法 (7) 教育と法 (8) 犯罪と法 (9) 労働と法 (10) 財産と法（その1） (11) 財産と法（その2） (12) 社会福祉・社会保障と法 (13) 医療・看護と法 (14) 知的財産と法 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします。詳細は授業時間に説明します。
使用教材・参考文献	使用教材	授業時間に説明します。
	参考文献	授業時間に説明します。 なお教職課程履修者は、「中学校学習指導要領（社会・公民的分野）」または「高等学校学習指導要領（公民）」を読んでおくこと。
成績評価の基準と方法	基準	法学の基本的な用語の意味を理解していると認められる場合及び日常生活と法の関係について説明できると認められる場合に合格とする。
	方法	試験、提出物等により評価する。詳細は、授業時間において説明する。
備考	中学校社会科・高等学校公民の教員免許状取得希望者は、「教科に関する科目」の選択必修科目になっているので、注意すること。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	政治学概論	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	近代の政治思想から現代政治学までを概観します。近代や現代の思想家や政治学者たちが、政治をどう捉え、どう論じてきたのかを学び、自らが今日の政治を考えていく上での糸口をつかんでください。
	到達目標	政治学には様々な研究分野がありますが、講義ではまず社会契約論など近代の政治思想を概観し、続いて米国政治学を中心に説明していきます。それぞれの内容を把握し、幅広い政治学の見取り図が描けるようになることが、この講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 近代の政治思想① (西洋政治思想史について) (3) 近代の政治思想② (マキャベリ『君主論』) (4) 近代の政治思想③ (ボダンの主権論) (5) 近代の政治思想④ (社会契約論について) (6) 近代の政治思想⑤ (ホブス『リバイアサン』) (7) 近代の政治思想⑥ (ロック『統治二論』) (8) 近代の政治思想⑦ (ルソー『社会契約論』) (9) 近代の政治思想⑧ (ベンサムとミル) (10) 現代の政治学① (米国政治学の系譜) (11) 現代の政治学② (メリアムとシカゴ学派) (12) 現代の政治学③ (ラズウェルほか) (13) 現代の政治学④ (政治システム論) (14) 現代の政治学⑤ (今日の政治理論) (15) 結論	
自学自習	事前学習	教科書や参考文献等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	使用教材	初回の講義で指示します。
	参考文献	佐々木毅、鷲見誠一、杉田敦著『西洋政治思想史』北樹出版、1995年 福田歓一著『政治学史』東京大学出版会、1985年 中谷猛、足立幸男著『概説 西洋政治思想史』ミネルヴァ書房、1994年 福田歓一著『近代の政治思想』岩波新書、1970年 宇野重規著『西洋政治思想史』有斐閣、2013年 小笠原弘親、小野紀明、藤原保信著『政治思想史』有斐閣、1987年 岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年 堀江湛、岡沢憲英編『現代政治学 (第2版)』法学書院、2002年 久米郁夫ほか著『政治学』
成績評価の基準と方法	基準	講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書やインターネットの丸写しなど不誠実な答案は、評価の対象外となり、単位は認定されません。
	方法	受講人数に応じて、試験または期末レポートにより評価します。初回の講義で指示します。
備考	講義中に私語をする学生の受講は、認めません。講義担当者から注意を2回以上受けた場合、単位は認定されません。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル


科目名	人権論	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	「人権」は、さまざまな視点から論じることが可能であるが、この講義では、主として人権思想の歴史的展開について考察する。「人権」は物理的な《モノ》ではなく、西洋で生まれてきた《アイディア》であるということをまず理解してほしい。そして、このような「人権」の考え方が、現代社会において実際にどのように機能しているか、という点についても考察してみたい。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権思想が前提としている「人間観」について考察する。</li> <li>・日本語の「権利」と、「right」について、両者の異同を理解する。</li> <li>・近代人権思想の類型について理解する。</li> <li>・現代社会における人権の機能についての知識を得る。</li> </ul>
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 「権利」とright (その1) (3) 「権利」とright (その2) (4) 人間観について (5) 西洋における人権思想 (その1) (6) 西洋における人権思想 (その2) (7) 西洋における人権思想 (その3) (8) 西洋における人権思想 (その4) (9) 西洋における人権思想 (その5) (10) 日本における人権思想 (11) 日本国憲法と人権 (12) 人権に関する法制度 (13) 現代社会における人権の意義 (14) 国際社会における人権 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします（目安としては、15回の講義期間内に、新書版の本を10冊程度読了する）。詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する（特に指定する教材はない）。
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この講義を通じて学んだこと」が明確であると認められる場合に合格とする。</li> <li>・人権思想のあらましが理解できたと認められる場合に合格とする。</li> </ul>
	方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートまたは試験による。</li> <li>・「学習報告（この講義を通じて学んだこと）」を提出する。</li> <li>・詳細は講義時間に説明する。</li> </ul>
備考	この講義は、正確な知識や技能を修得するというよりも、各自の視野を拡大することを主なねらいとします。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会学概論	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	社会学は、普段は意識しない「日常性」の中に、対人間の相互作用、個人と社会・個人と集団の関係、社会規範・秩序など社会を形づくる要素を探る学問である。本科目では、人と人が関わりあう活動領域で有効かつ必要な、社会的なものを見方を取り上げ、習得してもらうことを目的とする。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事柄について、個人的なことと社会との結びつきを認識できる。</li> <li>・「日常生活の自明性」を再考する発想ができる。</li> <li>・前近代から近・現代社会への変化のすう勢を理解できる。</li> </ul>
授業計画	(1) 社会学とはどのような学問か (2) 社会学の人間観 (3) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか:自己意識の成立と社会化 (4) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか:地位と役割 (5) 私たちはいかにして社会と「馴染む」のか:演技という戦略 (6) 私たちはいかにして「社会」と馴染むのか:組織と集団 (7) 社会を捉える視点:様々な社会学理論(1) (8) 社会を捉える視点:様々な社会学理論(2) (9) 学説・理論編のまとめ (10)現代日本の姿 世帯構造の変化と高齢化(1) (11)現代日本の姿 世帯構造の変化と高齢化(2) (12)現代日本の姿 人間関係の変容(1) (13)現代日本の姿 人間関係の変容(2) (14)現代日本の姿 人間関係の変容(3) (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・意味のわからない用語は事前に調べておくこと。
	事後学習	Moodle にて随時復習課題を提示する。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。
	参考文献	奥村 隆、『社会学の歴史 I—社会という謎の系譜』2014年、有斐閣 (ISBN978-4641220393)。 那須 寿(編)『クロニクル社会学—人と理論の魅力を語る』1997年、有斐閣 (ISBN978-4641120419)。
成績評価の基準と方法	基準	社会学が目指す、自明性への問いかけおよび社会と自分の経験との橋渡しがある程度達成していることを最低の合格基準とする。
	方法	定期試験 60%、Moodle 課題 40%。
備考	Moodle 提出率が低い(6割未満)の学生は評価対象から外すこともある。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	社会調査法	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	複雑な社会現象を捉えるための手段として、行政・政策・政治・経済・社会・文化や研究など様々な分野で重要性を持つ社会調査について、それが科学的で説得力をもつために必要な基本的事項を学ぶ。受講生は、「とりあえず調査してみよう」の姿勢が危険であることを痛感するだろう。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査の有効性と限界、社会調査に求められる「科学性」を理解できる。</li> <li>・身近な社会調査である国勢調査・世論調査について基本的事項を確実に理解し、説明できる。</li> <li>・基本型である統計的調査・記述的調査について説明できる。</li> <li>・調査者に求められる倫理について、確実に理解できる。</li> </ul>
授業計画	(1) 社会調査—社会をとらえるためのツール／調査でわかること／個人の偶然と社会の確からしさ (2) 社会調査の歴史—人口統計と社会問題の調査／調査技術の高度化・調査方法の多様化 (3) 社会調査の実例—官庁統計・国勢調査／世論調査／マーケティング・リサーチ (4) 社会調査の種類①—量的調査（統計的調査）／数量で社会を見ること・見えること (5) 社会調査の種類①—量的調査の具体的調査方法—全数調査・標本調査／母集団・標本 (6) 社会調査の種類①—量的調査の具体的調査方法—無作為抽出／様々なデータ収集方法 (7) 社会調査の種類②—質的調査（事例調査・記述的調査）／量ではなく質で社会を見ること・見えること (8) 社会調査の種類②—質的調査の実例 (9) 量的調査と質的調査の比較—それぞれの技法としての有効性と限界、相互補完の関係 (10) 科学的な調査の条件①—調査の企画・設計の科学／母集団・標本／全数調査・標本調査 (11) 科学的な調査の条件②—調査結果と現実とのズレ（誤差）の科学—標本誤差と非標本誤差— (12) 科学的な調査の条件③—調査票作成の科学 (13) 科学的な調査の条件④—調査結果の評価の科学 (14) 調査者に求められる倫理—なぜ調査するのか？／してはいけない調査／無駄な調査 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	毎回、次回の授業のキーワードや専門用語を提示するので、参考文献・辞書・事典等で事前に調べておくこと。
	事後学習	不定期に授業内容の復習小クイズをするので、確実に復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	使用しない。
	参考文献	嶋崎尚子『社会をとらえるためのルール—社会調査入門』学文社, 2008年. ISBN9784762018336 大谷信介他『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房, 2013年. ISBN9784623066544 宮内泰介『自分で調べる技術—市民のための調査入門』岩波書店, 2004年. 谷富夫, 芦田徹郎編『よくわかる質的社会調査法』ミネルヴァ書房, 2009年。 佐藤郁哉『フィールドワークの技法：問を育てる・仮説をきたえる』新曜社, 2002年。 山田一成『聞き方の技術：リサ—
成績評価の基準と方法	基準	科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。
	方法	レポート等の課題遂行 15%・定期筆記試験 85%
備考	社会調査の入門科目であるので、この科目の受講で実践的な調査スキルを習得することはできない。しかし、受講生は社会に氾濫する様々な安易な調査を批判的に観察してほしい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル


科目名	倫理学概論	
担当者	柴田 健志 / SHIBATA, Kenji	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	「正義」を主題にして、倫理学上の重要問題を検討します。
	到達目標	功利主義の基本的な考え方を理解する。 自由至上主義の基本的な考え方を理解する。 カント倫理学の基本的な考え方を理解する。 アリストテレス倫理学の基本的な考え方を理解する。 倫理学の諸問題について、自ら考え、表現することができる。
授業計画	(1) DO THE RIGHT THING(テキスト:第1章) (2) 功利主義1(テキスト:第2章) (3) 功利主義2(テキスト:第2章) (4) 自由至上主義(テキスト:第3章) (5) 経済と道徳(テキスト:第4章) (6) カントの倫理学1(テキスト:第5章) (7) カントの倫理学2(テキスト:第5章) (8) 平等とは何か1(テキスト:第6章) (9) 平等とは何か2(テキスト:第6章) (10)アファーマティヴ・アクション(テキスト:第7章) (11)アリストテレスの倫理学1(テキスト:第8章) (12)アリストテレスの倫理学2(テキスト:第8章) (13)個人と共同体(テキスト:第9章) (14)政治と善(テキスト:第10章) (15)まとめ	
自学自習	事前学習	テキストの該当箇所を通読してください。
	事後学習	問題点を明確にしてテキストを再読してください。
使用教材・参考文献	使用教材	マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ文庫 2011年 ISBN: 9784150503765
	参考文献	授業中に適宜紹介
成績評価の基準と方法	基準	講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがある。
	方法	期末試験(80%) 出席態度(20%)
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	哲学概論	
担当者	近藤 和敬 / KONDO, Kazunori	
科目情報	人間文化<学科関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	近代とはなにか。このことを理解するうえでは、西洋哲学についての理解を欠くことができない。本授業では、「西洋＝近代」とは何であり、それにたいして自分たちがどのように位置づけられうるのかということを理解するために、古代から現代にいたる哲学史の概要を学びながら、考えていく。
	到達目標	1. 西洋近代についての理解を深める。 2. 哲学史と近現代社会の関係について理解する。 3. 現代哲学を理解するうえで必要な基本的知識を獲得する。
授業計画	(1) ガイダンス 現代社会と哲学 (2) 哲学の起源と学問の歴史、ソクラテス以前の哲学者たち (3) 理性と絶対性、プラトンとアリストテレス (4) キリスト教の歴史と哲学のかかわり、プロティノス、アウグスティヌス (5) 哲学と神学の乖離、デカルト、スピノザ (6) 近代科学の誕生とデカルトの哲学革命、ライプニッツ、ニュートン (7) 経験と心の問題、ロック、ヒューム、ルソー、コンディヤック (8) 超越論的観念論、カント (9) 法と道徳の問題、カント (10) 名誉革命、米独立戦争、仏革命、産業市民社会と政治、サン＝シモン、マルクス（ここまでの内容についての小テストあり） (11) 人類の進歩と歴史、帝国主義と植民地、コント、ヘーゲル、ダーウィン (12) 近代の終焉にむけて 絶対精神から実存へ、ニーチェ、コジエーヴ (13) 二つの世界大戦、近代批判、工場産業から情報産業へ、レヴィ＝ストロース、ボードリヤール (14) 現代の診断、自然主義のほうへ、フーコー、ドゥルーズ、ガタリ (15) まとめの小テスト	
自学自習	事前学習	・授業でもちいるスライドの PDF を授業の前後に読んで予習と復習をすること。
	事後学習	・授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい。
使用教材・参考文献	使用教材	授業中のスライドの PDF
	参考文献	貫成人『哲学マップ』筑摩書房、2004年。 伊藤周史・齋藤直樹・菅原潤編『21世紀の哲学史——明日をひらく知のメッセージ』昭和堂、2011年。
成績評価の基準と方法	基準	講義内容の理解が不十分な場合、不合格となる場合があります。
	方法	途中の小テスト（40%）とまとめの小テスト（60%）で評価する。
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル